

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172000374), 法人名 (医療法人社団 松島内科), 事業所名 (グループホームみのり 1Fユニット), 所在地 (小樽市緑1丁目16番14号), 自己評価作成日 (平成25年1月1日), 評価結果市町村受理日 (平成25年3月14日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療機関であり、入居者様の状態に変化があれば適切で迅速な医療処置を行っている。また概ね週に一度、主治医の往診や、定期的な検査等を行い、日常の状態を把握し情報の共有に努めている。地域のボランティアによる囲碁、マッサージ等外部からの来訪もある。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 1 row: 基本情報リンク先URL (http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0172000374-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (NPO法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成25年2月27日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は小樽市の閑静な住宅街に立地している。近隣には病院、商店街、バス停があり利便性に恵まれている。建物は鉄筋3階建て、1~2階はグループホーム、3階は高齢者マンションとなっている。室内は広く明るくいびングを中心に洗面台やナースコールのある居室が整備されている。母体組織である医療法人は地域に根差して高齢者医療、介護事業を数多く展開しており、母体を中心に医療、研修、人事での協力関係がある。特に医療面では24時間体制での診療が期待でき支援体制が確立しているのが特徴である。職員は、医師による高齢者疾病に関する勉強会や内部、外部への研修会に参加し日々研鑽している。利用者の心身の体力保持に努め、「幸せで穏やかな生活」ができるよう目標をたて支援している。利用者の表情は明るい。運営推進会議については、行政関係者や町内会代表、家族も参加して定例に開催している。会議内容は運営に反映している。防災については、防火壁やスプリンクラー設置で事業所内環境を整備すると共に、定例の避難訓練に加えて、防災管理自己点検を定期的実施して備えている。地域とはボランティアの訪問や商店の利用等で双方での交流がみられ良好な関係である。医療と介護のトータルサポートを通じ、地域の人々が住み慣れた地域の中で安心して生活ができるよう環境作りに取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の目標があり、職員全員が共有して実践に繋げている。	地域密着型の意義を踏まえて作成した法人理念と事業所目標を室内に掲示している。会議や研修で共有をはかりケアサービスの向上に努めている。	法人理念に基づき事業所目標を共有して実践につなげている。更に事業所独自の理念の作成について検討しているので、一層のステップアップを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の囲基、マッサージのボランティア様や薬局、クリーニング店、美容室などは職員と入居者様は日常的に関わりを持ち交流に努めている。	町内会に加入し、行事に参加している。幼稚園児との交流や、地域商店の利用、ボランティア訪問があり、日常的な関わりの中で良好な関係にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事案内を地域の方に配布したり、ホームを子供みこしの休憩所にして入居者様がお菓子を渡したり、また子ども達より鈴を頂いたり、幼稚園児のお遊戯披露会を行ったり、認知症の理解や支援に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催してホームの活動状況の報告や地域の方々の意見を聞きサービス向上に取り入れている。会議には町内会・地域包括支援センター・近隣住民・ご家族に案内を出し参加をお願いしている。	会議は定例に開催し、市職員、包括支援センター、町内会、家族が参加している。運営、行事、災害等について討議しサービス向上に活かしている。議事録は家族にまで送られている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の案内や会議内容・議事録を作成し市役所へ持って行ったり、届け出、情報提供を密に行い、業務上の問題・相談を随時行っている。	行政担当者とは、所定の事務連絡や届け出業務の他にも、実情を伝えたり、相談する等、常に協力関係を築いている。市担当課職員が見学に来る等の双方向の連携が行われている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に2回から3回のミーティングを通じ入居者様のケアに関して禁止の対象となる具体的な行為について話し合い職員の意識を高めるよう努めている。	身体拘束をしないケアを行っている。マニュアルを整備し、内外の研修会に参加し、職員の意識の共有をはかっている。日中玄関は施錠せず安全に配慮しながら自由な雰囲気大切にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止等の研修に参加し、その結果を全体ミーティングで職員に周知し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がおり、安心して生活して頂けるよう配慮している。また、研修があれば随時参加し、知識を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居面談時や契約時に利用者・家族の不安や疑問点を確認し、十分な説明を行い理解と納得を頂くよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族に意見や要望を聞きサービスに反映できるよう努めている。	日頃の面談で意見を聴いている。意見箱を設置し、苦情相談受付窓口や外部への公的苦情受付機関を案内している。「みのり通信」は家族との絆を深めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングは月1回、フロアミーティングを月2回行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	管理者は全体会議やフロア会議で職員と情報や意見交換をしている。運営や設備改善等についても管理者を通して代表者に伝えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月1回各グループホームの代表が集まる会議を行い、各部署の現状を報告したり、提案したりして職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症についての外部研修やレクリエーション療法、薬についての内部研修会に参加し、ミーティングを通して情報の共有を図り全体のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し同業者と関わりを持つ機会を作っている。相互訪問については今年には実施していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日のバイタル測定の際に本人の意向を伺い、不安があれば解消し、要望には耳を傾け、出来る限り応えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が来訪された際に意向、要望、不安に思っていることを伺い、良い関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居2週間、本人の必要としていることを見極め、ミーティングを行い職員皆で話し合い、サービス内容を考え支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にレクリエーションを楽しんだり、洗濯物をたたんだり、買い物へ出掛けたりと、良い関係を保てるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪された際、近況を本人と一緒に話したりし、家族の絆を大切にしている。訪問できない家族には月1回は連絡をとり近況を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	天気の良い日にドライブをし、馴染みの場所を訪れたり、美容室に行き馴染みの人に髪を切って頂くなどが出来るように支援している。	馴染みの理美容室の利用や商店への買い物を支援している。大切な家族や友人との絆が続くように、訪問者が利用者と共に室内でゆっくり寛げるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話をしている際に聞き間違えた時など、スタッフが仲介し良い関係ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、馴染みの入居者に会いに来たりするのでその関係性を大切にしている。又、相談などがあればその都度対応し支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの日々の状態や、会話の中から体調や思いをくみとり、極力意向にそって退屈な方には昔ながらの遊びレクをしたり、居室にてゆっくりしたい方はゆっくりできる環境を作る様努めている。	一人ひとりの会話や、動作、表情から本人の意向を汲み取っている。家族情報や記録も参考にし本人の希望に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔ながらの習慣や暮らしてきた背景を本人やご家族に聞いたり、利用していたサービスの担当者に問い合わせたりしながら、馴染みの生活を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	テーブル拭きや洗濯物たたみ等出来ることは行ってもらい、銀行や美容室に行ける方は職員が付き添い外出したり、その方の身体状態に合わせて支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回のカンファレンスや全体会議を通して情報を共有し、より良い支援が出来るように意見を出し合い、変更などがあればご家族や本人に説明し現状に合わせて介護計画を作成している。	本人、家族の意向を尊重し、担当者、計画作成者を中心に全職員で作成している。3か月毎の定期的モニタリングの他、現状に即して随時介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌にその日起こった内容を記載し、申し送りノートで情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに合ったニーズを考え、本人やご家族と相談しながら柔軟な対応が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族や親族の方々以外で日常的な外部との接触は多くはないが、散髪その他、囲碁やマッサージのボランティアは少しずつ活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の要望を最大限取り入れその都度、かかりつけ医に連絡、相談し適切な医療を受けてもらっている。	利用者希望の医療機関への受診や連絡は家族と共に支援している。毎週法人の医療機関からの往診があり、緊急時にも対応できる体制にある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の抱えている問題や、疑問点、身体の不安などは記録ノートや日誌に記入し、看護師や介護職員などで話し合い、解決できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、頻繁に訪問したり病院関係者に状態を確認したりして情報の把握に努めている。退院時も同様に情報を共有し適切な指導を得られるよう話し合う機会をもっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	より良い方針が持てるよう、日頃からご家族に細かに状態を報告し、医療とも相談しながら情報を共有できるよう関わりを持っている。	「看取り指針」を作成し、家族とは早い時期に同意書を交わしている。重度化した場合は家族、職員、医師が方針を共有し、医療機関と連携をとりながら、できる限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は、内科に連絡をし医師の指示を受け迅速に対応している。また、研修の機会を多くもち事故発生に対応に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、夜間、地震を想定した訓練を行っている。地域の方々に参加頂けるよう運営推進会議でお願いしている。	マニュアルを整備し、消防署立会の下、年2回避難訓練を実施している。定期的に「防災管理自己点検」を行い防災意識を高めている。防火壁、スプリンクラーの設置がある。	地域との協力体制については運営推進会議にはかり協力依頼をする他、職員が戸別訪問し、避難訓練の見学案内をしている。防災や避難訓練については具体的に検討し危機管理に備えるということ期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	女性入居者様で男性介助を拒否される方がいらっしゃるので必ず同性介助を行い、プライバシーを損なわないように注意している。	個々の尊厳を大切にして接遇に配慮している。個人情報記載書類の保管や取扱いはプライバシーを損ねないよう慎重に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の要望を聞きながらその方に合った対応を心掛け、希望を表し自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、ご本人の意向に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望によってお好きな美容院に行ったり、洋品店で好きな洋服を買うよう付き添い支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回一人ひとりの好みを聞きながら出前や外食などを行っている。又、出来る方には食後のおしぼり干しを行ってもらったりしている。	献立は利用者の好みを取り入れ、負担にならない範囲の作業に参加している。職員は利用者と共に食卓を囲み、談笑しながら楽しい雰囲気を大切にして支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った調理を行い、食事介助や声かけのし方を工夫してバランスの摂れた食事や水分を摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい・歯磨き・舌みがきなど、各入居者様に応じ出来ることは自分で行ってもらいながら出来ない部分は職員が介助を行い清潔を保てるよう援助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、食前・食後にトイレ誘導を行い、夜間はパット等を使用し工夫して極力オムツの使用を少なくするよう努めている。	一人ひとりの表情や動作、排泄チェック表から排泄パターンを把握し、それとなく誘導している。トイレでの自立排泄に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼食前やおやつの前に、体操を行ったり、水分を多めに摂ってもらったり、規則正しいトイレ誘導を行ったりして排便リズムを整えてもらえるよう心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合ではないが、入浴の曜日は決まっている。体調によっては変更もある。入浴時間や洗い方などは入居者様に聞きながら個々に添った支援をしている。	本人の希望や体調を考慮して入浴が楽しめるよう支援している。希望により同性介助を行い、浴室の衛生、安全管理にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて必要な入居者様については、朝食後や昼食後に休息頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がすぐ見れる場所に薬情があり、症状の変化など把握できるように努めている。又、服薬介助も職員2人で確認し間違えなく服用できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎に句会や囲碁、月に1回手芸教室など行っている。日常的にはメニュー書きなどの仕事を行ってもらい役割を持って楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回位ご家族と美容室や病院に行った帰りに夕食をするなど外出の機会をもっている方もいる。又、天気の良い日はドライブに出かけたり、散歩に行ったりしている。	個々の体調に配慮し、利用者の希望に沿って外出支援をしている。事業所行事として、ドライブ、大型店買い物、夕食、紅葉狩りなどがあり楽しみとなっている。	外出は冬季など安全面から難しい時期があるが、できるだけ利用者の希望に沿えるように、家族やボランティアの協力も考慮して検討しているので期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大きなものはご家族の確認をもらっているがちょっとしたものはご本人に預かっているお金から希望に沿って購入することもある。管理の出来る方はご本人が所持し必要に応じ支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使用できるようにしている。また、頼まれて職員が手紙やはがきを投函したりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は常に清潔を保つようにしている。季節の花を飾ったり、掲示板にはドライブやお祭りなどの行事の写真を貼ったりしている。入居者様が読んだ句を季節ごとに貼ったりもしている。	明るく広いリビングには季節の花や飾り物、利用者の俳句短冊が飾られている。廊下、台所、トイレ等共有空間は清掃が行き届き、採光、温度、湿度、換気等良好に環境整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分は常に清潔を保つようにしている。季節の花を飾ったり、掲示板にはドライブやお祭りなどの行事の写真を貼ったりしている。入居者様が読んだ句を季節ごとに貼ったりもしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心掛け、本人の思い出の物や使い慣れた馴染みの家具等を置き心地よく過ごしてもらえるよう努めている。	居室にはナースコール、洗面台、クローゼットが設置されている。使い慣れた家具や思い出の写真を飾り安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は、安心して歩行できるよう手すりを設置し、浴室・トイレはわかりやすく表示し、夜は蛍光灯を付け安全に過ごせるよう努めている。		